

第19号

川越初雁会



コロナ禍を越えて新たな形で

令和三年七月二十四日、川越高校図書館二階会議室において、役員幹事会が開催され総会へむけての各議案が討議されました。また、在京初雁会、西信之会長（高十七）の急逝（二月四日）の報を受け、黙祷を行いました。



役員会で冒頭の挨拶をする岩堀会長

岩堀会長の挨拶

昨年度は秋の散策会のみ実行できました。それ以来コロナの影響で集会を開くことがままならず、実際に顔をつきあわせて、話し合う機会が奪われてしまいました。人と人の交流の場を設け、肌で触れあうことの大切さを実感しました。今年こそ元に戻れると思っています。

同窓というよしみがあることで、年代を越えて親しくなるこの会を、ぜひ利用して頂きたいと思います。

来年度の事業について

総会

令和三年九月十八日

(土) 川越高校図書館二階

セミナー室で記念講演、懇

親会なしで開催予定です。

講演会

令和四年三月十九日

(土) 講師 未定

散策会

令和三年十月九日(土)

忠臣蔵ゆかりの地を訪ね

て両国周辺



会議を進行する加島事務局長

ゴルフ同好会

ゴルフ部会は秋のコンペを十月十四日(木)川越カントリークラブにて集合七時三〇分集合で行います。

一と勝海舟」の読書会を二ヶ月に一度ずつ開催しています。

ホームページについて

川越初雁会のホームページは、毎月内容を更新しています。ぜひ多くの方の閲覧をお待ちしています。

読書会

藤沢周平の著述を音読する会と、近現代史「渋沢栄

会と、近現代史「渋沢栄

秋の散策会目的地の一つ、吉良邸紹介



太線で囲った部分が討ち入り当時の吉良邸

赤穂浪士が元禄時代に討ち入りした当時の吉良上野介の屋敷は、八千四百平米、大きすぎて実感がわかないので例えると、川越高校のグラウンドがすっぽり入る程の大きさです。

吉良上野介が隠居の身となった時に、幕府は吉良家に本所松坂町に屋敷替えを命じました。当時の本所は中央から離れた位置だったので、吉良上野介は、もはや幕府の護衛の援助は期待できないとみて、独自に警備を行なっていました。広大な敷地の中で、浪士は長く上野介を見つけれられたと思います。

現在は「本所松坂町公園」になっています。昭和九年度元町会の有志が遺跡を後世に伝えようと、旧邸跡の一面を購入し史跡公園として、東京市に寄付しました。

川越明信館館長 間中先生と旧制川越中学



在りし日の川越明信館

道場の作り

道場は木造平家で建てられており、玄関入口右に古色蒼然たる、川越明信館間中道場の看板が取り付けられており、入口右側はのぞき窓で無双窓という二枚の板が互いちがいに開閉出来る仕組になっていました。入ると一段と高くなって、着衣着道具の場所であり、このすぐ下が少し低くなつて剣道場でありました。

事のため、郭町一丁目（現在川越小学校体育館）に再移築されました。

戦前戦後を通じて多くの剣士を輩出しました。この明信館は、川越高校とも深いつながりがありました。

その右の畳の処には間中先生の奥様がいて、剣道終了時にお茶などを出してくれました。

道場の側壁には道具入の棚がありその上には、門弟の方々の段記名の札が不明瞭ながら相当掲げられてありました。

幕末の頃より直心影流剣術道場が喜多町広済寺附近にあり、明治初年に川越市役所北側に移築されました。さらに入間郡役所の拡張工

年川越市の敷地に建物があったこともあり、解体されました。現在は石碑のみが残されています。今回川越高校との、つながりを調べてみました。

川越明信館の位置

幕末の頃より直心影流剣術道場が喜多町広済寺附近にあり、明治初年に川越市役所北側に移築されました。さらに入間郡役所の拡張工

年川越市の敷地に建物があったこともあり、解体されました。現在は石碑のみが残されています。今回川越高校との、つながりを調べてみました。

野佐三郎は、郷里秩父明信館に帰って父の道場を再興し、浦和にも道場を開きました。この明信館の支部が関東地方中心に三十九支部が設立されました。

野佐三郎は、郷里秩父明信館に帰って父の道場を再興し、浦和にも道場を開きました。この明信館の支部が関東地方中心に三十九支部が設立されました。

明信館は高野佐三郎先生の提唱された一流一派にこだわらない明信館運動に共鳴された、阿部親呢先生により、明治二十八年（一八九五）年、川越明信館として設立されました。

二人の間中先生

三代目の館長は間中龍吉。明治三十八（一九〇五）年六五歳の時に招かれて川越の館長に就任しました。

龍吉は明治三十四（一九〇一）年から川越中学校武道教師も務めていました。

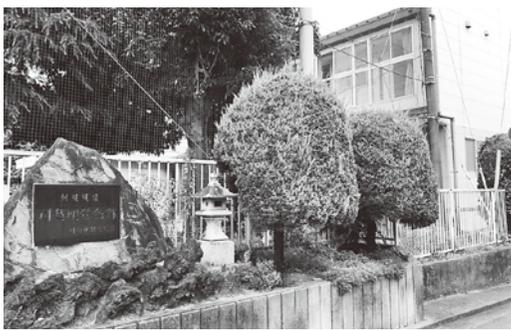
そして、四代目館長が龍吉館長の長男で明治十八（一八八五）年生まれ、範士七段の間中鹿太郎です。

剣道の経歴を記すと明治三十四（一九〇一）



間中鹿太郎先生

年 浦和町明信館長高野佐三郎先生膝下において剣道修行
明治三十八（一九〇五）年 武術研究所長高野佐三郎先生より剣法得証書授与
大正二（一九一三）年 埼玉県立川越中学校武術教師委嘱
大正五（一九一六）年 中等学校教員剣道科講習会に於て学科課程終了
大正八（一九一九）年 埼玉県立工業学校武術教師兼務委嘱
大正九（一九二〇）年 剣道精錬証受与、大日本武徳会総裁
大正九（一九二〇）年 埼玉県立蚕業学校武術教師



現在の明信館跡と石碑

兼嘱

大正十(一九二一)年

川越警察署武術教授委嘱

昭和十一年(一九三六)

年 川越商業学校武術教師

兼務委嘱

武術専任の教師として、

川越市内の各学校でも指導

していました。また、当時

埼玉県西部地域で最も大き

な剣道場の館長として、北

村博学先生をはじめ多くの

門人を育てました。

喜寿を祝う剣道大会

川越高校との関わりとし

て、戦後の川越に於ける

大きな剣道大会で、昭和

三十六(一九六一)年、川

越高等学校校体育館で行なわ

れた埼玉県剣道大会並びに

間中先生喜寿祝賀会が行わ

れました。

その先生の喜寿の大会が

行なわれるにあたり、北村

博学先生を中心に数多くの

門弟が骨身をおしませ働

き、

県下剣道大会と銘打って立

派に行なわれました。そし

て、翌年先生は静かに息を

引き取られました。

川中生とのつながりを座

談会の中から抜粹

座談会が行われたのは昭

和六十二(一九八七)年司

会の藤田信明氏(元川越市

助役)に答えた中嶋直二

(元東洋大学教授)氏の対

談から

中嶋 川越の剣道界を語

る時に真先に挙げなければ

ならないのが間中鹿太郎先

生です。私は大正十二年に

川越中学に入学初めて剣道

を間中先生に教わりました。

私は私を剣道の虜にしてして

しまいました。川中時代の

剣道の思い出はいろいろあ

る訳ですが特に私にとり忘

れることができないのは、

埼玉学生誘接会と旧制水戸

高校主催の関東大会で優勝

することができたことであ

ります。

私事になりますが、私の

多感な中学時代、間中先生

の影響を強く受け、剣道で

身を立てようと決心し、東

京師範学校(筑波大の前

身)へ進学した訳です。

その当時、川中から東京

高師へ進んだ人は、学年順

に申しますと、平川龍夫・

鈴木玄・中嶋直二・三宅俊

三・高橋一郎らの人達です。

当時の高師剣道科主任教

授は高野佐三郎先生で、先

生からは専門家としての厳

しい修業、いろいろな教え

を受けた訳で、今ここでそ

れを語れと言われましても、

到底時間か足りません。た

だ一つ今でも頭にこびりつ

いているのは、「剣道は倦

まずたゆまず、剣道は一生

の仕事です」と私達にさと

された先生の言葉です。

私は昭和八年高師卒業以

来、東洋大学の教授を定年

でやめるまで、四十七年間

学校剣道指導者として過ご

した訳ですが、その間幸い

にして大過なく過ごすこと

ができました。

これは特に中学時代に教

えを受けた間中先生の影響

が非常に大きかったと思う

のです。先生は誠心誠意、

誠の心を以て弟子達を導か

れたのであります。私は今

後生命のある限り川越の剣

道、間中流を皆様と一緒に

稽古して行きたいと思っ

ています。

藤田 ただ今のお話によ

りますと、中嶋先生は間中

先生の薫陶により剣道を以

て身を立てようと決心され

実践された訳ですが、先生

同様に剣道を以て身を立

られた先輩・後輩には、ど

のような方がおられました

か。

中嶋 一番先輩は平川龍

夫先輩で、川中から高師へ

進み、和歌山師範を始め当

時の中学・師範の先生を永

年続けられた方です。

鈴木玄君は、中学時代か

ら非常に真面目な人柄で、

高師卒業後、長野師範の先

生を長く勤め、後に四国の

予科練の教官となり、応召

されて戦地で病死されまし

た。

それから、三宅俊三君は

やはり高師卒業以来長く教

職にありましたが、埼玉県

に帰ってから川口市の助役

をされ、今は岩槻に元気で

おくらしです。

高橋一郎君は、私より三

年後に高師へ入学し、一緒

に寄宿舎生活もしたのです

が、遠野中学に奉職されま

した。

川越市剣道連盟

創立三十周年記念誌から

抜粹

雁の記

中央公民館分室

荒牧 澄多

(高二十七回)

川越散策日記

今回は、平成三十一年（二〇一九）三月末に老朽化により閉館した、中央公民館分室を覗いて見ましよう。

所在地は六軒町二丁目、というよりは蓮馨寺の西、仲町から日高県道へ抜ける南北の通りである大工町と云った方が分かりやすいかも知れませんが、ここは、大工職人が起こした町と言われていますが、江戸時代に



武家屋敷風の門と生け垣

は武家地になっていました。その為、比較的広い敷地が多い通りです。また、武家地だった為、町家建築は見当たりません。

中央公民館分室は、昭和五十七年（一九八二）に修繕工事が行われ、開館しました。

さて、その前はというと、山吉さんの別邸です。

山吉さんとは、山田屋渡辺吉右衛門。一番街の保刈齒科医院となっている鉄筋コンクリート造り三階建てのビルを建てた方です。ちなみに、このビルの設計は、第一回で取り上げた重要文化財田山崎家別邸を設計した保岡勝也です。

この分室の建物は、東京三田にあった久松定模伯爵邸を、昭和三年（一九二八）に小泉八雲（ラフカディ

オ・ハーン）（一八五〇～一九〇四）の長男一雄氏（一八九三～一九六五）が譲り受け、三橋村（現さいたま市大宮区、西区）に移築したものです。この家で一雄氏は、八雲の形見の机に向かい、父への憶いを綴った「思い出の記」を執筆したとのこと。

後年、一雄氏のご息子がここを訪れた時、奥の十畳の書院に向かつて執筆していた父親の姿を、なつかしそうにお話されていました。

その後、昭和十四年に山吉さんが現在地に再度移築し別邸として使ってきましたが、縁あって川越市が購入、中央公民館分室として活用してきました。なお、十畳間の天井板は解体せず、そのまま荷車に載せて持ってきたそうです。

ところで、伯爵邸にしては、小さすぎると思いませんか。おそらく、解体された材料をいただき、再度組

み合わせて今の間取りにしたものでしょう。十畳間の設えに、その一端を感じさせてくれます。

通りに面しては、木造の門と柘植の生け垣になっています。この門は、腕木門という形式で、武家屋敷を



自転車置場と鍛鉄のオブジェ

まいりました。生け垣は、川越の武家屋敷では枳殻が一般的ですが、さすがに棘が危ないため、柘植にしています。

門から玄関までの雁行しながらのアプローチも、改修工事に併せて設えたものです。武家屋敷らしく、直線的に玄関に辿りつけないようにと、わざと屈曲させています。

門を入った足元には、鍛鉄製の小さな自転車のオブジェが置かれています。これは、第十一号で取り上げた川越駅東口の鍛鉄のオブジェを制作した小峯貴芳氏の作品です。自転車置場の切妻屋根や堅格子風のデザインは、従者の控え所のイメージです。

なぜ、知っているかですって？それは、……。参考 川越市発行のパンフレット

え引き戸にしています。また、本来の屋根構造は、天井裏にもう一段構造をつくり厚みを持たせますが、予算の関係で一重になってし

インターネットの活用

コロナ禍のなか、インターネットの活用が必須の要素になってきました。川越初雁会も澤田さんが中心になってホームページを作成、管理して頂いています。今後も更に、会員に利用して頂けるよう活動していきたいと思えます。これを機にぜひホームページとインターネットを活用してください。



令和3年5月から毎月表紙の写真を会員である関口 洋介氏（高11回）の写真集「美しき奥武蔵」から抜粋してご紹介しています。7月のタイトルは「雨上がり（飯能市・高山）一晩中降り続いた雨が止み、雲は霧となって山峡に沈んで消えて行った」

川越初雁会のホームページへようこそ。
川越初雁会は平成23年9月3日、埼玉県立川越高等学校の川越地区在住同窓生の集いの為発足しました。皆さん、入会の上会員同士で交流を深め、母校の発展に努めましょう。

情報格差は医療格差に 澤田 正（高十七）

最近の新聞記事のタイトルです。記事の内容は新型コロナウイルスのワクチン接種予約の際に生じた、混乱の

中で見えた、情報格差が健康格差に繋がると言う事です。

数年前アメリカで行われた調査ではインターネットを使う機会が無い方は医療情報を得られないことから治療が遅れることになることが非常に多かつたそうです。

「情報をテレビや新聞だけに頼っているとリスクが生まれる」「本場に必要ない情報と得られない」「インターネットを活用できる高齢者が増えて欲しい」と言う事でした。

出前パソコン教室

事務局では出前パソコン教室を開催しています。連絡を頂ければ、指定の日時に指定の場所に伺い基本的なパソコンの使い方をお教えします。

是非参加して学習し、離れた所に住む人たちのメールの遣り取りなどに利用して下さい。

新入会員紹介

昨年度から六名の新入会の申し込みがありましたので、会員として紹介させて頂きます



水村 博美（高八）

八回生の水村です。この度、同輩の岩堀・堅木両君の誘いを受けて入会の機会を得ました。

市内の小学校に三十七年間お世話になり、居住する日高と同等の知己を得ています。ここで更に御縁が結べて、嬉しことです。

八十三歳になり、残り少ない時間を如何に楽しむか。今は、誘いは全て受けることにしています。特にゴルフは断りません。横好きと家族に揶揄されてもくじけませんが、雪と雷以外は必ずプレイします。

後期高齢者となり、全てにとろいですが、新人として

て、仲間に入れてください。名誉ある川越初雁会会員のメンバーに成れたこと楽しませていただきます。くれぐれもよろしくお願います。

関口 洋介（高十二）



奥武蔵ひなげしの丘

体調が芳しくないために執筆を遠慮させて頂き、この連絡がありました。

関口さんが撮影した写真が添えられていましたので、掲載します。



山崎 榮
(高十七)

昭和四五五年に紡績会社に就職し一年間本社工場のある福島で勤務し、その後東京本部に転勤し平成二〇年六月まで毎日朝七時三〇分前後の川越発の東上線の満員電車の吊革につかまりながら都内に通っていました。そのせいか今でも電車は座らず立っているほうが好きです。

退職後はスポーツジムに定休日以外毎日通い、友人との月一回のボウリング、年数回のゴルフで時間をつぶしていました。

コロナの蔓延によりこれらのことができなくなり今は自宅で過ごす時間が多くなり、家庭での飲酒も増え、体重増加に伴い健康診断の数値が悪化しています。

コロナの蔓延によりこれらのことができなくなり今は自宅で過ごす時間が多くなり、家庭での飲酒も増え、体重増加に伴い健康診断の数値が悪化しています。

折しもコロナで外出もままならなくなりましたか

コロナウイルスの感染が収まり、早く元の生活に戻れるよう願っている毎日です。



鳥海 修一
(高二十)

これまで同窓会とは距離を置いていましたが昨年同期の増村君から読書サロンに誘われたのを機に入会いたしました。

かつてある先輩から、福沢諭吉の娘婿は川越出身なのに川越の人はほとんどの人が知らないという話に、川越に住んでいながら情けないという思いがあり、少しづつ本を読んでいたところでした。

仕事を終えて昨年フリーの身となりました。仕事を離れたいま、自分が如何に会社を中心とした狭い範囲でしか生活してこなかったのかということを感じています。

幸いにしてゴルフやハイキングなどを通じて二十三年卒の同期生たちとは今でもお付き合い頂いています。川越高校にすべて本当に良かった」と感じます。

ら丁度良い具合でした。今、趣味としてそば打ちを習っています。そば打ちを通して多くの人達と知り合い、Enjoy・Lifeの日々を送っています。

く川越地区の卒業生の皆さんの交流と親睦を深めることができればと思います。ご指導ご鞭撻の程よろしくお願ひします。

し、明治大学技術士会に参加し活動しています。OBの皆さま、親しくご指南のほどお願ひします



矢部 正信
(高二十三)

仕事一筋(?)の会社生活を終えて昨年フリーの身となりました。仕事を離れたいま、自分が如何に会社を中心とした狭い範囲でしか生活してこなかったのかということを感じています。

国鉄民営化と同じ昭和六十二年四月に入学、在学中に元号が変わり平成元年度卒業の高四十二回・佐藤剛と申します。明治大学政治経済学部に進学し、その後は建設コンサルタントに就職しました。

次なる改元の折、平成三十一年度の技術士試験に合格。平成最後の合格者・令和最初の技術士(建設部門)となりました。文系出身は珍しく、経歴に驚かれます。

技術士制度の認知度向上、文系出身者の受験支援を志

発行人 会長 岩堀 弘明 事務局長 加島 篤人 事務局 川越市六軒町一三十三番 吉沢翠亭(義和) 印刷 (株)櫻井印刷所